

NO	内容
イベント管理システムの導入範囲	
1	図書館で行われるイベントは、全て職員にて入力して管理できるシステムを導入する。 イベントごとに、以下公開区分に分けて管理できること。 ①インターネット公開するイベント(予約申請可能) ②インターネット公開するイベント(予約申請不可/表示のみ) ③インターネット公開しないイベント(予約申請不可)
2	①②の場合、インターネット経由で開催されるイベント一覧が閲覧できること。 又、①の場合は、更に利用者がインターネット経由でイベントの予約申し込みが出来ること。
3	管理者端末からは、各イベントごとの利用者申し込み状況が逐次確認できること。
4	図書館で行われる、①～③イベント全ての集客数等の統計データを作成できること。
前提条件・共通	
5	利用者は、各種イベントの閲覧と申し込みを、貸出カード番号・パスワード又は電話番号・メールアドレスと名前etcの必要項目を入力することによって、参加申し込みが可能なシステムであること。(貸出カード番号は図書館システムと連携すること)
6	管理端末は、職員の権限ごとにログインIDとパスワードを設定することができ、それらに対応して閲覧・操作できる機能を制限できる機能が装備されていること。
利用者機能	
7	利用者がインターネット経由で図書館ホームページに接続して、当日以降の講演会、各種イベントの予約状況、開催日時、締切日時、オンライン申請の可否、申込方法、講師名etcが一覧表示で確認出来ること。
8	イベント一覧のイベント名を選択すると、イベント詳細画面が表示され、イベント内容、開催日時、参加対象、定員数、開催場所、申込期間、申込方法、受講者決定方法の情報が確認できること。
9	定員に対する申込人数の状況を表示できること。
10	利用者がインターネット経由で図書館ホームページに接続して、貸出カード番号・パスワード又は電話番号・メールアドレスと名前etcを入力することにより、当日以降の講演会、各種イベントの予約が可能なこと。
11	イベント申込方法は、先着順・抽選の表示が可能なこと。先着順は定員になると満席表示となり、申込み出来ないこと。抽選の場合、ランダムで当選者が決定されること。
12	予約申込時、利用者ごとに受付番号が生成され、予約完了画面に表示されること。
13	イベント一覧のページから受付番号入力することで、利用者自身の申込済のイベントの内容確認ができること。又、確認後に申込済のイベントを申込取消することが出来ること。
管理者機能	
14	ログインID・パスワードによって、特定の館に関するメニューしか操作できない仕様とする。 中央図書館は、全館分のイベント情報を操作できること。
15	職員が申込者を登録すれば、WEBからの予約だけでなく、電話やはがきでの申込者も入力でき、一元管理できること。WEB申込からの申込か、職員が入力したかの判別が出来る仕様であること。
16	イベント毎に、申込人数、申込者の受付番号、利用者ID、利用者名、受付日時等申込状況が確認できる画面が表示できること。
17	申込者一覧画面上の受付番号を選択すれば該当の申込者の詳細表示及び予約削除画面に遷移できること。
18	管理者が閲覧するイベント一覧には、イベントID、開催日、イベント名、開催場所、申込方法、申込数/定員、締切日時、WEB公開/非公開が表示されること。
19	管理者が閲覧するイベント一覧では、開催済のイベントは表示されず、別途検索可能なこと。
20	イベントを選択すると、該当イベントの参加者が一覧表示されること。
21	対象期間、WEBへの公開区分、講師名etcを入力すれば、登録済のイベントを検索でき、検索結果がイベント一覧として表示されること。
22	利用者ID、利用者名等の個人情報は、イベント開催後、一定期間経過後に消去されること。ただし、統計用の人数のみ消去されずに保存されること。
管理端末イベント新規登録	
23	申込方法には、先着順・抽選の選択ができること。

24	管理者画面からは、新規イベント登録・変更・削除が可能なこと。 表示項目は、開催日・開催時間・講師・場所・定員・内容・申込方法・締切日の入力・表示が可能なこと。
25	イベント毎に、任意のイベントIDの設定ができること。
26	イベント新規登録の際に、過去に登録したイベントを引用することで、登録内容が新規登録画面に自動的に入力され、追加・修正して新規イベントとして登録可能なこと。
27	イベント毎に、利用者が登録する情報(例:電話番号、区分etc)を選択できること。
28	イベント新規登録の際に、定員数とは別に、キャンセルを見越した予備人数を任意で設定できること。
管理者統計	
29	予約者の一覧表示及びCSVファイル出力が可能なこと。
30	WEB上に公開しないイベントも登録することができること。 公開しないイベントの情報も統計には反映されること。
31	開催予定・開催済に関わらず、イベントの一覧表示及びCSVファイル出力が可能なこと。